

# 積算資料

2021  
6

直轄土木工事における働き方改革の取組  
流域治水関連法について

文明とインフラ・ストラクチャー⑥⑥ 竹村 公太郎  
建築あれこれ探偵団がゆく⑩② 藤森 照信

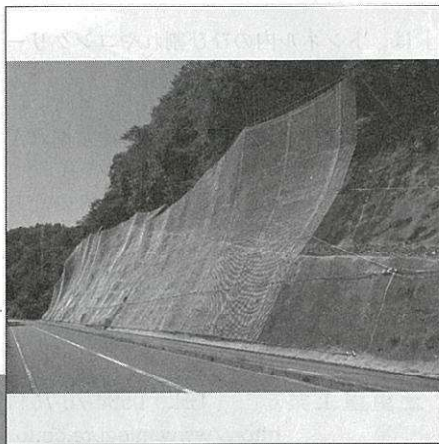


災害復旧資材の供給情報はこちら

<https://www.zai-keicho.or.jp/>



## 高エネルギー吸収型落石防護網「強靱防護網」



同製品は、高強度な金網およびワイヤロープ、緩衝装置等の組み合わせにより、斜面上部で発生した落石を補足した際、落石エネルギーを効率よく吸収しながら、斜面下端まで安全に誘導することを目的とする、高エネルギー吸収型ポケット式落石防護網である。

緩衝装置は工場では組み立て後に納品するため、設置工程の削減ができ、2つの構造タイプと、対応可能落石エネルギーごとに7型式を揃えており、状況に応じて対応可能である。

ネットタイプ (6型式) : 対応可能落石エネルギーは、200kJ、400kJ、700kJ、1,400kJ、2,500kJ、5,000kJ

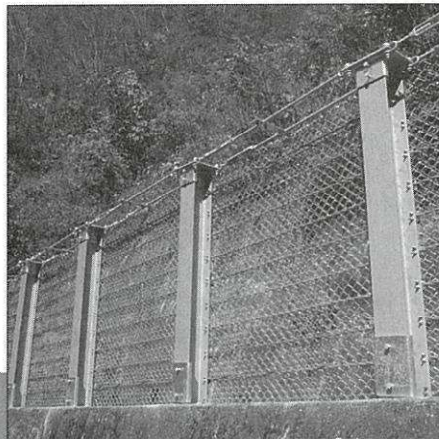
ロープタイプ (1型式) : 対応可能落石エネルギーは、2,700kJ

斜面の安全・安心研究会

TEL : 025-283-3450

<https://s-spm.jp/>

## 「ストロンガー工法」



既存の落石防護柵をそのまま利用し、特別な加工を施すことなく簡単に補強・柵高のかさ上げを行うことができる補強工法。

[特長]

- ・低コスト (6万円/m<sup>2</sup>~) で短工期 (30mで2~4日)
- ・柵高不足の場合は、H=3.5mまでかさ上げ可能
- ・現地加工なし
- ・取り替えと比較して、交通規制や騒音・振動対策の負担を軽減
- ・高強度金網と緩衝装置を使用することにより、120kJまで性能アップが可能

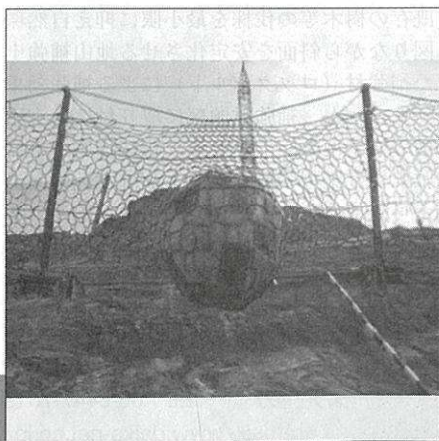
NETIS登録番号 : HR-140004-A

(株)ビーセーフ

TEL : 0763-22-7835

<http://www.be-safe-japan.com/>

## リングネット落石防護柵「高エネルギー吸収型落石防護柵(RXEタイプ)」



リングネット落石防護柵は、部材の変形によって落石エネルギーを吸収する高エネルギータイプの落石防護柵。基本技術は、スイス連邦森林・雪・景観研究所 (WSL) とFATZER社が、実物大実験を主体として開発したもので、日本の地形、地盤条件に適合するよう実験を重ね開発した。

このほど、従来のRXタイプを改良し、変形量を約30~40%小さくしたRXEタイプをリリースした。従来のRXタイプは最大3,000kJまで、落石規模に合わせて7種類の柵タイプを用意していたが、RXEタイプは500・1,000・2,000・3,000kJの4種類がある。柵タイプが増え、現地条件に合わせて選択肢が広がった。

東亜グラウト工業(株)

TEL : 03-3355-5100

<http://www.toa-g.co.jp/>